



おなじものをみつけよう (課題挑戦ゲームを通して自然の世界へ)


1 プログラムの概要

- ① 内 容 3～5個の葉っぱや木の実などの自然物を、30秒～40秒間でよく観察して覚え、あらかじめ決めておいたエリア内で同じものを見つける課題にチャレンジするゲーム。
- ② 場 所 公園や庭
- ③ 時 間 20分前後
- ④ 準備物 自然物を隠す箱 (バンダナやハンカチでもよい) ・自然物 (木の実・葉・虫の抜け殻など合わせて3～5個) ・葉っぱなどを集める袋 (バンダナやハンカチでもよい)

2 ねらい

- ・ 親子のコミュニケーションづくり。
- ・ 課題に沿った発見を促すことで観察力や知的好奇心を育み、思考し挑戦する楽しさを感じる。
- ・ 課題挑戦遊びの体験を通じて自然体験の面白さや楽しさを感じる。

3 プログラムの進め方

プログラム内容	保護者の関わりのポイント
<p>(準備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き箱を持って公園などに出かけ、空き箱の中に、内緒で、公園など遊ぶ範囲にある葉っぱや木の実などを3～5個入れて、見えないうようにしておく。 (空き箱の代わりに、バンダナなどでもよい。) 	<p>【参考】 初めの課題は簡単なものにしましょう。</p> <p>【入れるものの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 花・木の実・色や形に特徴のある葉っぱや種、鳥の羽、特徴のある小石、カタツムリの殻、セミの抜け殻など生き物でないもの。
<p>(遊び方の説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供に対して、ワクワクする声かけをして、遊びに誘います。 <p>【例】 「この箱の中に何が入っているのでしょうか？」 「今日は、挑戦してもらいたいことがあるんだけど、できるかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供に遊び方を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 蓋の閉めてある箱を見せる。 ② 中に入っている物が、公園 (探す範囲を教える) の中の、葉っぱやお花、木の実などであることを伝える。 ③ 課題を教える。 「蓋を開けるので、ゆっくり10数えている間 (30～40秒程度) に、よ～～く見て、中に入っている物を覚えて、大きさや色が、できるだけ同じ物を同じ数だけ探してきてね。」 ④ ゆっくりと蓋を開けて、10数えながら、子供が自然物をよく観察するようにサポートします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親も笑顔で活動を楽しみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 覚えるのが難しそうなら、形や色など、どんな特徴を見たら覚えやすいか声掛けしましょう。 <p>【子供への声掛け例】 「手触りはどう？」「なにかにおいがする？」</p>

(遊び方1)

- 再び蓋を閉めて、公園の中で箱の中と同じ物を探す。

※ もし、子供が「もう一度箱の中が見たい」様子だったら、③～④を、数回繰り返してあげましょう。



- 時間がきたら、箱を開けて、中の自然物と集めた物が同じかどうか、同じ種類でも似ているところや違うところをよく観察して比べる。



(遊び方2)

- 2回目を行う時は、課題の難易度を上げて(数を増やす、覚える時間を短くする、見つけにくい物にするなど)チャレンジする。
- 子供が遊び方を理解したら、親子の役割を交代して、子供に課題を出してもらおう。

(ふりかえり)

- 課題挑戦ゲームで見つけた物や起きたことなどをふりかえり、親子のお話を楽しみましょう。次に挑戦するときの作戦を練るのもよいです。

- 子供と一緒に探したり、親子の活動を楽しみましょう。

- 子供が、箱の中に隠れているものの特徴をとらえて探しているか、サポートしましょう。

【子供への声掛け例】

「どのくらいの大きさだったかな?」「あといくつ?」「もう一度見て見たかったら教えてね。」

- 子供の挑戦を見守りましょう。
- 頑張っていることを認め、励ましましょう。

【子供への声掛け例】

○ 望ましい例

- 「あとひとつだ、がんばってね」
- 「わたしもどんな大きさだったか忘れちゃった(間違えてもいいという安心感を伝える)。」

○ 望ましくない例

- 「まだ?早くしなさい」
- 「そんなのじゃなかったでしょ」

- 植物の名前を教えるのではなく、諸感覚を働かせて自然を感じる声掛けをしましょう。

【例】 丸い、長い、トゲトゲ、ツルツル、ピカピカ、大きい、小さい、いいにおい、くさいなど。

- 同じ種類の葉っぱであるかどうかより、「どこが似ているか、どこが違うか」を親子で一緒に見比べながら対話をしましょう。

- だんだんと子供に合わせて難易度を上げ、繰り返し楽しみましょう。

- 子供がもっと詳しく知りたい気持ちになったら、図鑑などで調べる活動につなげてみましょう。

- このゲームで頑張ったことや工夫したこと、次はどうしたら覚えやすい(見つけやすい)かなどを一緒に考えましょう。

4 留意点

- ・ 危ないとき以外は、子供の行動を制止せず、見守りましょう

5 服装他

自然の中で活動する時は、長袖シャツ・長ズボン・帽子・靴下・運動靴（または長靴）を身に着けることで、ケガや蚊やマダニ・蜂刺され、熱中症を予防します。また、虫よけスプレーを肌や服に吹きかけて出かけましょう。

6 安全確認

- ・ 自然の中では、かぶれる葉っぱや毛虫、特に草むらではへびやマダニなどに注意しましょう。また、夢中になって道路に飛び出したりしないように、子供の安全についてサポートしましょう。
- ・ 自然の中に出かけた後は、服についたゴミやマダニを落とすために全身をはらい、ケガや虫刺されがないか、チェックをする習慣をつけましょう。
- ・ 葉っぱや花を取る場所が、採取してよい場所かどうか、大人が確認して教えましょう。社会のルールに出会うチャンスでもあります。